

釧路のみなと、まちづくりへの提案

地域と港湾を考える研究会 研究員報告



2004年3月

釧路公立大学 地域経済研究センター

はじめに

本報告書は、釧路公立大学地域経済研究センターの「地域と港湾を考える研究会」メンバー8名による、釧路港と釧路のまちづくりに向けて発せられたメッセージである。8名の市民メンバーが、地域経済研究センターの客員研究員として、自主的に国内外の地域調査、ヒアリングを行い、そこで学び、感じたことをもとに、地元の釧路に対する提案としてこれらのメッセージをまとめたものである。

このメッセージの意義は、それぞれの具体的な政策提言内容のみならず、地域の港づくり、港湾政策に対しては経験のない素人の市民が意識醸成を図りながら自発的に政策提起、提案していったという点にある。これは、今後、港湾政策やまちづくりに関わる政策を進めていくうえで、政策主体が市民が積極的に直接関与していくパブリックインボルブメント（P I）のあり方を考えていく上での貴重な情報でもあると考えられる。

本研究会活動の系譜は、平成11年度から取り組まれている釧路公立大学地域経済研究センターの社会人ゼミ活動にまでさかのぼる。釧路地域の市民有志が、仕事を終えた後地域経済研究センターに集まり、自主的に地域課題をテーマに勉強を続けながら、ささやかな情報発信を行ってきたのである。そのなかから、沈滞した地域の活性化を目指して具体的な政策につながる情報発信をという機運が出てきた。その潮流は、まさに自主的、意欲ある市民主導型のP Iにつながるものであると感じ、2年間にわたる地域経済研究センターにおける「P Iの試行的研究」として位置づけ、社会人ゼミ経験者を母体に新たに「地域と港湾を考える研究会」を組織し、研究活動を展開していったのである。

本研究会による調査研究手法は、主に他の先進地、近似地域の調査という比較方法論的手法を採った。それは、各研究員の自主的な希望が強かったこと、市民意識の醸成を図る契機として有効な手法であることによるが、結果的には、予想を超えて、

他地域での認識をきっかけに釧路地域に対する認識、評価、問題意識等がより深まったと感じている。

さらに、研究活動における成果として、国内の港湾、港を抱える地域におけるNPO、市民活動団体の活動の高まりを知り、それらの団体と連携を得る機会を多く得たことが挙げられる。そこには、我々が大学と市民レベルの研究会であるという親近感もあったのであろうが、予想以上の情報を収集する機会が得られた。今後、港におけるP Iの展開においても、これらNPO、市民団体の役割は大きいものがあると推察される。

本報告が、これからの釧路地域の活性化、港湾政策の展開等に向けての検討の一助になることを祈念するとともに、本研究活動の機会を与えていただいた釧路開発建設部釧路港湾建設事務所の皆さんに対しては厚くお礼を申し上げます。

最後に、忙しい仕事の合間をぬって、研究会での議論、国内外の現地調査への参加、研究報告書の作成という作業と一緒に取り組んでいただいた市民研究グループ8名の皆さんに対しては、心より感謝を申し上げます次第である。

2004年3月

釧路公立大学 地域経済研究センター長

小磯 修二

報告書 目次

釧路のみなと、まちづくりへの提案（研究員報告）

港に立地している、魚の物販を中心とする観光商業施設の調査	近藤 信治	1
港を舞台とした産業観光の可能性	塩 博文	24
釧路港への港湾投資と市民理解	庄司 清彦	48
港の歴史を生かした産業観光の可能性	星 匠	57
市民に親しまれる「みなと」への再生	畑 由規子	63
釧路の港と人をつなぐ私の夢	松実 知子	72
東京ディズニーシーのコンセプトによる釧路・みなとまちづくりの提案	小笠原亜也	78
合意形成における参加と手法について	名塚 昭	86

付録（新聞掲載記事）
